

朝日新聞 〈子どもとIT〉レポート



子どもたちにスマホが普及していく中で、正しいデジタルリテラシー^{*1}を持ち、自立性と判断力を持つ子どもたちを育てるために

高校生や中学生、小学生の間でもスマホが普及しつつある中、保護者としては、子どもがトラブルに巻き込まれないかどうか心配です。青少年の健全な育成を目的に、Webサイト等の運用管理体制を審査し、啓発・教育活動も行っている一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構の事務局長・藤川由彦さんに、子どもたちの安全なスマホ利用について話を伺いました。

【企画広告】 企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 広告特集



一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 事務局長 藤川 由彦さん

この国の青少年の3人に1人は、ネットで悩んだ経験があります。



いつか、あたりまえになることを。

インターネットを使う人は多いのに、そのあんしん・安全な使い方を教えてくれる人は少ない。モバイル通信でのコミュニケーションが、豊かで優しいものになるように。インターネットに潜む危険や、ルールやマナーの大切さを伝える「スマホ・ケータイ安全教室」と、青少年を違法・有害情報から守るフィルタリングサービスなど。時代の変化に対応し、あんしん・安全なコミュニケーションの方法を広めていくことも、ドコモの使命の一つです。お客さまの想いに、この世界の課題に、一つひとつ、向き合っていく。一人ひとり、それぞれが豊かになることで、一步一步、持続可能な社会の実現に近づいていく。わたしたちはそう信じています。一人ひとりを見つめて、わたしたちは進化していく。

モバイル利用のあんしん・安全のための取組み
ドコモは、青少年の違法・有害情報へのアクセスを制限するフィルタリングサービスを提供しています。また、スマートフォンなどの利用に関する危険やトラブルへの対応方法を啓発する「スマホ・ケータイ安全教室」を日本全国で開催しており、これまでに、のべ920万人(2016年12月末現在)の皆さまに参加いただきました。



For ONEs

世界は、ひとりの複数形でできている。

「コンテンツリスク」と「フィルタリング」の利用範囲を狭く広げることが大切

▼フィルタリングの利用範囲を狭く広げることが大切
スマホを利用する子どもたちの中には、不適切なコンテンツに巻き込まれ、トラブルに巻き込まれるケースも少なくありません。また、SNSなどの利用で、個人情報の漏洩や、悪質な誹謗中傷などの被害に巻き込まれるケースも少なくありません。保護者は、子どもがスマホを利用する際に、どのようなリスクに巻き込まれる可能性があるのか、事前に把握しておくことが大切です。

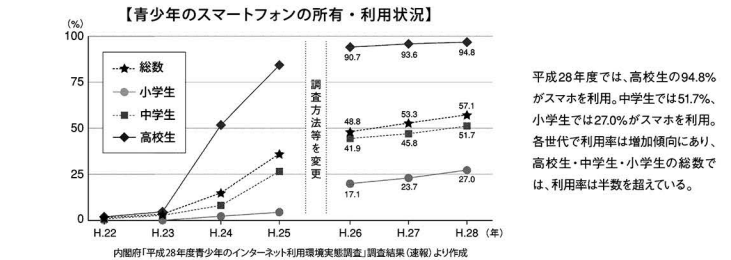
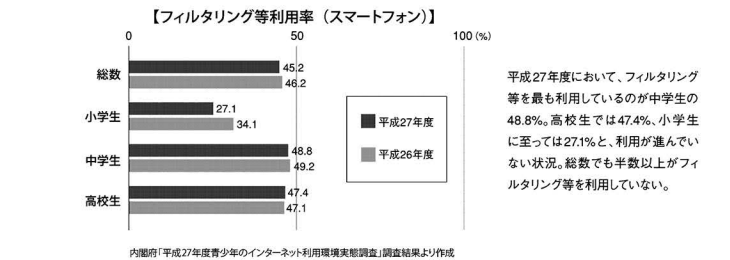
「やっつけていけない」と「現実もネットも違う」という現実

▼スマホの利用を通じて、社会や学校生活と自立を促す
内閣府の統計によると、高校生のスマホの所有・利用率は9割を超えています。中学生でも利用率は約7割、小学生は約5割に達しています。一方で、スマホの利用は、子どもたちの生活リズムやコミュニケーションのありかたに大きな影響を与えています。特に、SNSなどの利用は、子どもたちの交友関係や自己表現の場を提供している一方で、悪質な誹謗中傷や、個人情報の漏洩などのリスクも伴っています。保護者は、子どもがスマホを利用する際に、どのようなリスクに巻き込まれる可能性があるのか、事前に把握しておくことが大切です。

スマホ社会に必要な情報リテラシー

法律やルールを学ぶだけでなく、デジタル社会で生きていくためのスキルを身につけることが大切です。特に、SNSなどの利用は、子どもたちの交友関係や自己表現の場を提供している一方で、悪質な誹謗中傷や、個人情報の漏洩などのリスクも伴っています。保護者は、子どもがスマホを利用する際に、どのようなリスクに巻き込まれる可能性があるのか、事前に把握しておくことが大切です。

「やっつけていけない」と「現実もネットも違う」という現実。子どもたちは、デジタル社会で生きていくためのスキルを身につけることが大切です。特に、SNSなどの利用は、子どもたちの交友関係や自己表現の場を提供している一方で、悪質な誹謗中傷や、個人情報の漏洩などのリスクも伴っています。保護者は、子どもがスマホを利用する際に、どのようなリスクに巻き込まれる可能性があるのか、事前に把握しておくことが大切です。



子どもたちをトラブルから守るために

スマホ利用のチェックリスト

- なぜスマホが必要かを話し合った
- 利用時間や利用場所のルールを決めている
- 課金や通信料など、お金に関する取り決めを行っている
- スマホの機能制限やフィルタリングサービスを利用している
- 個人情報を書き込まないことや送信しないことを話し合った
- 他人を誹謗中傷したり、不適切な画像を投稿しないなど、「情報モラル」について話し合った
- 著作権の侵害やネット詐欺など、トラブルに巻き込まれないための「情報リテラシー」について話し合った

教育現場での取組み

— 複合的な教育効果に注目 —

「SNS東京ルール」の取組み

SNS利用に必要なルール	SNS利用に向けた学校の指導
SNS東京ルール <ul style="list-style-type: none">● 日の利用時間と終了時刻を決めて使う。● 自宅ではスマホを使わない日をつくる。● 必ずフィルタリングを付けて利用しよう。● 自分や他人の個人情報を載せないようにしよう。● 送信前は、相手の気持ちを考えて読み返そう。	児童・生徒が身につける力 <ul style="list-style-type: none">・複製・拡散が容易で、情報の特性に関する基本的知識・様々な情報を選択・判断する能力・受け手の十分な配慮に基づいて情報を発信できる能力や態度
SNS学校ルール <p>教員の指導の元、児童・生徒同士が話し合ってつくるルール</p>	学校における指導の推進 <ul style="list-style-type: none">○ カリキュラムモデルの提示○ 補助教材の作成・配布○ 特色ある取組み成果の普及
SNS家庭ルール <p>保護者と子どもが話し合ってつくるルール</p>	東京都教育委員会の取組み <ul style="list-style-type: none">○ 「親子モラル教室」○ 「情報モラルサミット」○ 「高校生出前講座」など

東京都教育委員会「SNS東京ルール」のリーフレットより作成